

ふじみ荘問題等高齢者の地域参加促進施策をめぐる

経過の概要と主な論点・課題

はじめに

当初「有効活用」を掲げていたのが突如「廃止」と変更されたふじみ荘問題は、区の2018年度決算に基づき、「新公会計制度」を活用した2019年度「事務事業評価」を根拠とした「39 予算事務事業」のうち廃止対象事業のトップに「老人休養ホームふじみ荘運営」が挙げられたことが契機となった。

この間の経過の概要

1) 「コロナ禍の高齢者の居場所づくり—ふじみ荘問題を考えるつどい」

(8月28日)の開催の趣旨

- ①ふじみ荘が1970年に運営を開始して以来地域の中で果たしてきた役割と機能を評価し、今後、高齢者の地域参加や健康増進施策の充実をどのように図ることが望ましいのかを共に考える。
- ②当初「有効活用」を掲げていたのが突如「廃止」と変更された背景と理由を明らかにする。さらに、「複合化する高齢者施設の採算性の問題」、「『拠点整備型』から『高齢者の地域参加、社会参加支援を幅広く促すしくみづくり』へと(政策)転換を図る」という区の説明にある「政策転換」の中身を吟味する。
- ③「代替施設」として例示された「千歳温水プール」や「大蔵第二運動場」は機能面、立地状況からみて適切とはいえ、誘導対象とされた「ひだまり友遊会館」自体が「重複・類似事業の整理」の対象に掲げられている中、果たして代替施設になりうるのかを検証する。
- ④新型コロナウイルスにより当初予定から延び延びとなった利用者説明会は、7月に7回にわたって開催されたが、そこで寄せられた声は存続を求めるものが圧倒的に多くを占めていた。また、「新たな高齢者の地域参加促進施策」が未だ、明確に提示されたわけではないことから、「廃止先にありき」ともいえる状況をどう考えるのかを吟味する。
- ⑤区も第2定例区議会において、「(4月時点で)区の高齢者人口は約18万5千人であり今後も増加が見込まれる。区の高齢者施策においても孤立防止や健康長寿などが課題となっている。当時策定中の『第8期高齢者保健福祉計画』の検討でも身近な場所での地域活動への参加促進等が課題となっている」こ

とを認めていたことから、地域参加や交流、居場所としての機能と役割を果たしてきたふじみ荘を突如廃止することは区の高齢者施策の方向性と逆行するのではないのかという疑問を解明する。

- ⑥「第 8 期高齢者保健福祉計画」を審議してきた区の「地域保健福祉審議会」において、「認知症の方とか老人が環境の違うところにぽんと行けというのはあまりいいことじゃない」との委員の指摘に対して、区側が「身近な施設、馴染んだ施設ということで御利用いただいていた皆様に御迷惑をおかけした」と答えたやりとりがあるが、区が「(仮称)世田谷区認知症とともに生きる希望条例」制定・施行を目指していた経緯からみても、高齢者の社会的なつながりや居場所を喪失することで社会的な孤立や認知症の進行がもたらされるのではないかという懸念を払拭することができないと考えられる。こうした懸念や疑問に答える道筋を模索し、高齢者の多様な活動と憩いの場や健康増進と社会とのつながりの場の確保のあり方を切り口として共生の地域づくりを進める展望を考える。

2) 8 月 28 日のつどいの運営の流れと明らかとなった参加者の思い

- ①つどいでは、冒頭、「廃止」を打ち出した区の動きとその背景等に関わる報告を主催者側から行った後、区の担当者、ふじみ荘利用者の会、高齢者の社会参加に関わる有識者によるパネル討議に移り、それぞれ報告や問題提起を行った。
- ②パネリストの発言を受け、フロアから意見、質問等が寄せられ、パネリストからの回答並びにコメントが行われた。また、臨席した区議会各会派(自民、共産)の各代表から感想、コメントが寄せられた。
- ③パネル討議やフロア発言等を通して、ふじみ荘が地域の中で高齢者やその家族・関係者にとって長年にわたって愛され、親しまれ、皆が元気を回復し増進する貴重な居場所・財産であることが浮き彫りとなった。また、区側から、建替えや維持運営にあたってのコストが強調されたが、高齢者福祉や健康長寿などは採算性のみでは計ることのできない豊かな内容をもっていることも明らかにされた。さらに、「壊すのは簡単」だが、「器の可能性を生かす」ことの大切さをめぐって、近隣の他自治体の例にもあるように、コロナ禍の中の居場所・滞在所を災害時の要支援者対応としても整備する視点が重要であることや「多世代共生の居場所づくり」の必要性と可能性も交々語られた。コストの問題をめぐっても、区議会各会派のコメントの中で、本庁舎整備費用との対比が引用される等お金の使い道や仕分けという問題提起も示された。
- ④つどいを通じて、コロナ禍の中における高齢者の社会参加、居場所づくり、

参加と協働の共生の地域づくりとその拠点としてのふじみ荘の重要な役割の再確認についての共感が広がったといえる。この間の保育施設整備や新型コロナウイルス対応問題等で全国に発信してきた「世田谷モデル」を、「地域包括ケアの全地区展開」を含む高齢者福祉や「多世代共生の居場所づくり」の分野でも、関係者の丁寧な合意形成を通じて施策を進めていくことが求められていることが浮き彫りとなった。

3) 区の「高齢者の地域参加促進施策」が 9 月 1 日に提示された。

- ①区の「高齢者の地域参加促進施策」の 4 本の柱のうち 3 つは就労支援や有償ボランティア、高齢者クラブなど地域活動団体支援等の列挙であり、4 つめに「健康づくりと憩いの場の拡充」が示されていたが、「(区内には多くの)スポーツクラブがあり、大規模施設の中には入浴設備を備えた施設もある」、「他自治体も参考に区立施設や民間スポーツクラブの活用検討を進める」と極めて抽象的・一般的であり、最下段に現在のふじみ荘利用者向けに区が先に例示した「代替施設」や「公共施設一般」の紹介と「送迎バスの活用」等が並んでいるのみであった。
- ②全体として元気な高齢者向けの事業の組み立てになっており、居場所・コミュニティ・交流という視点の中身が希薄なものとなっていた。そもそも、提示された「施策」の所管が生活文化政策部と経済産業部とされており、高齢者福祉を所管する高齢福祉部の関与が見られないものになっており、当時、身近な場所での地域活動への参加促進等が課題となっていることを認める議論が展開されている区の「第 8 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」に基づく諸施策との整合性の検証が困難な構造といえた。

4) 8 月 28 日つどいと 9 月 1 日提案を受けて

9 月 24 日区長要請等が行われた。

**要請には、福島の子どもの保養活動を行う団体や
年金者組合も同席した。**

【区長要請書のポイント】

- ①区においても、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯が増加傾向にあると把握しており、区の高齢者施策においても孤立防止や健康長寿などが課題となっている。区地域保健福祉審議会の議論でも健康寿命にとって運動や栄養だけでなく、地域参加や交流の重要性が指摘されている状況下、居場所としての機能と役割を果たし、利用者説明会でも参加者の圧倒的多数が存続を強く求

めているふじみ荘を突如廃止することは区の高齢者施策の方向性と逆行するのではないか。拙速に「廃止ありき」でことを進めるのではなく、利用者・関係者の丁寧な合意形成を通じ、施策移行の条件も整えつつ円滑な施策展開を進めていくことが求められている。

- ②区が9月1日に提示した「高齢者の地域参加促進施策」(以下「施策」)も極めて抽象的一般的であり、しかもふじみ荘廃止の代替施策としては不十分なものと言わざるをえない。区の「施策」に記述された「令和3年度からの活用に向け検討を進める」というのであれば、(廃止に先立って)利用者・関係者の理解と納得の得られる具体的施策の構築が行われるのが至当ではないか。
- ③区がこの間、質を確保した保育施設整備や新型コロナウイルス対応等の課題で全国に発信してきた「世田谷モデル」のかたちを、「地域包括ケアの全地区展開」を含む高齢者福祉や「多世代共生の居場所づくり」の分野でも、ぜひ積極的な施策を構築し、関係区民の希望と安心を広げていくことを強く要望する。

【区長コメントのポイント】

- ①当初、サービス付き高齢者住宅を造り、その一部にふじみ荘を組み込むという民間提案で動いたこともあったが、諸条件で困難という結果となった。
- ②(9月1日提案に)これまで、高齢福祉部がかんでいないという疑問はその通りだ。第8期高齢者福祉計画や認知症条例のこともあるので高齢福祉部も入れて(検討が必要)。
- ③9月1日の区の提案(「高齢者の地域参加促進施策」)は未だ練れていないものであった。すすめる会の指摘はあたるどころもある。どのような高齢者施策を打ち出すのかその作業を急ぐように指示している。
- ④(廃止)条例後、高齢者政策についてももう少し話し合いをさせてもらいたい。
- ⑤保育園、児童館等の子ども施設か高齢者施設かと対立的には考えていない。
- ⑥玉川地域は銭湯が少ない。お風呂の活用は今後の課題として大事。ふじみ荘はお風呂と大広間と食堂がセットの施設。
- ⑦高齢福祉部も入れて、所管横断的に(あり方のイメージを)整理して政策をまとめたいということを検討したい。

※岡田副区長からも、「すすめる会のお話は重く受けとめさせてもらう。高齢者の居場所、コミュニティ交流の場づくりについて区議会でも指摘された。重要だと考える。生活文化部と高齢福祉部と、領域を越えてプロジェクトをつくって検討するようにとの区長からの指示を受けている」との表明があった。

【10月2日区長室長との意見交換が行われた際のポイント】

- ①「9月24日区長要請の中で明らかとなった」と、すすめる会が整理した論点と9月28日の区議会中間本会議の場で報告された区民生活常任委員会における各会派の態度表明、とりわけ、廃止条例賛成の会派からも共通して指摘された「代替となる施設やサービスについて丁寧に案内していく」とことと併せ、「ふじみ荘が果たしてきた高齢者がいつでも集えるくつろぎの場、地域の居場所としての機能を引き続き確保・充実を図る」ことが強く求められていることをあらためて指摘した。
- ②区長要請時に言及された、「(高齢福祉部を含む)領域を超えたプロジェクトチームの設置と検討」の進めかたに関わって、プロジェクトチームを早急に設置することと、検討の論点と行程スケジュールを提示すること、並びに、「関係者の意見反映の場づくりとその仕組み」を具体化すること等を強く求め、10月14日までにスケジュール感も併せて回答するように要請した。

【10月9日副区長等との意見交換が行われた際のポイント】

- ①10月2日区長室長とのやりとりに基づく岡田副区長、松本生活文化政策部長、長岡高齢福祉部長、岩元区長室長の4氏と協議を行った。
- ②9.24 区長要請時の区長コメントの言い回し、ニュアンスについては前述の通り確定したうえで、岡田副区長から、
- ③区の9.1 提案は、「居場所づくりの視点が弱い」、また、「(すすめる会がふれた)高齢福祉部所管の『第8期高齢者保健福祉計画』や『(仮称)世田谷区認知症とともに生きる希望条例』等で目指されている問題意識や施策の方向性との整合性を踏まえたものになっていないという意味で『十分練れていない提案』という指摘は当たっている」。
- ④「(すすめる会から指摘された)地域行政や地域包括ケアの全地区展開との施策の整合性を考慮するならば、生活文化政策部と高齢福祉部のみならず、保健福祉政策部や各総合支所等『領域を超えた検討』を進めていく。
- ⑤「(9.24 区長要請時の区長コメント等で示唆された)『領域を超えたプロジェクトづくり』に関しては、(区の9.1 提案時には不十分であった)福祉の観点も加えて、早急に立ち上げ検討を進める。検討にあたっては、その施策を固める前にすすめる会など関係団体からの意見反映の場を設ける」。
- ⑥ふじみ荘が果たしてきた高齢者がいつでも安心して安全に個人で立ち寄れる場所、寛ぎの場としての機能を、千歳温水プールや大蔵第2運動公園等代替施設として紹介した施設等でニーズに合った環境づくりを工夫したい。
- ⑦高齢者のみならず、多世代共生の居場所づくりとこれを支える地域づくりの

施策の具体化に向けた「領域を超えたプロジェクトチーム」による検討を実効性あるものとするため、課題の論点整理のため、再度、区長要請の場を設定されたいとの要望に対しては、後日、「調整の上回答する」。

- ⑧ 具体的な施策や代替施設の整備が整うまでの間、現在のふじみ荘を利用することを「地域参加施策」の選択肢に加えることはできないかという提起に対しては、「廃止条例が可決されたこともあり、無理」との回答。

5) 9月24日区長要請とその際の区長コメントに基づく一連のやりとりを踏まえて11月18日区長に対する再度の要請が実施された。

【11月18日要請書のポイント】

- ①9月24日の要請の際に、貴職からも言及された「高齢福祉部も関わった(高齢者の地域参加促進施策の再構築に向けた)領域を超えた検討プロジェクト」を早期に立ち上げること、並びに、その検討のプロセスに関係団体等の参画・意見反映の場を設定されたい。
- ②検討を行う高齢者の地域参加促進施策に関わる「代替施策・施設」の内実として、区議会においても各党派から指摘のあった「ふじみ荘が果たしてきた高齢者がいつでも安心して安全に個人で立ち寄れる場所、寛ぎの場」としての機能を整備されたい。その際、10月9日の意見交換の席上、副区長等から言及された「千歳温水プールや大蔵第2運動公園等代替施設として紹介した施設等でニーズに合った環境づくりの工夫」を図られたい。また、区が全地区展開を行っている地域包括ケアが多世代を視野に入れた構造であることに鑑み、代替施策・施設整備を構想するにあたって8月28日のシンポジウムでも話題となった「多世代共生の居場所づくり」の具体化を進められたい。
- ③ふじみ荘設置条例は廃止となったが、代替施策・施設の整備が整うまでの一定の期間、現存のふじみ荘の暫定利用の措置を図り、新たな施策への円滑な移行を進められたい。

【11月18日要請における区長等のコメント】

- ①9月1日に区として提示した「高齢者の地域参加促進施策」については十分練れたものではなかったことを踏まえ、当初の4つの柱の内3つの柱にそれぞれ「居場所づくり」を組み込んで、全体として5つの柱で検討している。(領域を超えた)会議体を開く準備を進めており、来週(11月24日以降)に「領域を超えたプロジェクトチーム」をスタートさせる予定。

- ②「領域を超えたプロジェクトチーム」によるプラン作成の途上で関係者のヒアリング等を予定している。
- ③当初提示した「代替施設」としての千歳温水プールは(このままでは)、アクティビシニアだけではなく、ふじみ荘を訪れている「寛ぐ、佇むという意味での居場所」という側面が弱い。千歳温水プールの大広間は、スペースとしては広いがあまり活用されていない。ふじみ荘の再現は難しいが、社協やあんしんすこやかセンターの力も借りて、(ふじみ荘で行っていたような)サービススタッフの配置とプログラムの提示など検討したい。
- ④単にスペースがあるだけでなく、千歳温水プールにおける迎え入れる体制づくりを進めたい。そのため、メニューを入れる工夫を「領域を超えたプロジェクトチーム」の検討の中で(こんなものが不足しているのではないのかとの)関係者の指摘も受けながらプランに反映させていきたい。
- ⑤(ふじみ荘廃止後の新たな代替施設への)空白を設けず円滑な移行のために「暫定利用」とのことだが、ふじみ荘は、お風呂の維持が年間5000万~6000万円かかるなど(コストの)太宗を占める。(築50年で耐震上の課題だけでなく)給排水や電気設備など水回りの大規模改修を含め、8億円かかる。建てかえは、現実的ではない。
- ⑥ふじみ荘に関しては、サービス付き高齢者住宅とふじみ荘の組み込みを想定したサウンディング調査をやったが(引き受け事業者やコストを含め)頓挫した経過がある。
- ⑦(ふじみ荘を)年度単位でいきなり切ることや跡地利用の考え方も明確に提示していないことから、区民、ふじみ荘利用者、関係者に冷たいイメージを発することになり、区として心があるのかと(皆さんにも)言われた。
- ⑧(暫定利用を求める高齢者の強い思い、居場所づくりをめぐる今後の件)(区の高齢者保健福祉計画にも謳われている)コミュニティ、孤立化防止が問われている状況のもと、どういうやり方があるのか、検討してみたい。

【12月14日の(その後の)区側検討を説明する懇談における区長コメント】

- ①9月1日に区が提示したスポーツジムを含む代替施策・施設は、働く意欲のある方や要介護の方には「はまる」施策はあるが、必ずしも働くことや「濃い人との関り」は求めないが、ひとりでぷらっと過ごす人の存在を(念頭におかない)、ゆるやかにつながって交流したり滞在する場を求める高齢者の対応としては、「十分練れていない」と申し上げた通り、十分でないものであった。
- ②所管部といたりきたり検討している。保健福祉部では、ふれあいサロンのノウハウをもつ社協との議論の積み上げや、高齢福祉部では、認知症の進行

を遅らせる計画を策定する「宣言自治体」としての(認知症在宅生活)サポートセンターを含めた対応や、生活文化政策部では、生涯現役対応であるとかである。

- ③ふじみ荘は、鍼灸スペースの確保やお風呂、憩いの場、食堂など独自の世界を形成していた。大蔵第2運動公園は(代替施設としては)難しさがある。
- ④千歳温水プールは、ふじみ荘の代替として活用可能性はあるのではないかと考える。社協のふれあいサロンのノウハウを生かして週に何回か(利用者サポートとか)、スポーツ振興事業団の水中ウォーキングを「うめとぴあ」の水治療室のようとか、シルバー人材でカラオケとかお風呂とかの入場者のお世話とか、また、ふじみ荘に配置されていた看護師などによる医療・福祉的アプローチとか、アドバイス、コーディネートをやるとか、給食を NPO で配食サービスをやるとか検討しているところ。
- ⑤ふじみ荘の「暫定利用」については、区として廃止を政策決定し、区議会に諮って議決も得た経過があるので難しい。しかし、廃止の前提と代替施策については十分練れていない状況であることは指摘の通り。コロナ禍の中の緊急滞在の場として(ふじみ荘を)使うことは区議会に柔軟な対応の空気があれば、区議会としても使うことに反対ということではないと思われるが、生きがいと居場所という全般的な福祉を含めた区民要求とコロナ禍の対応という問題(の扱い)。

6) 12月15日の区長とふじみ荘利用者の会(池上氏)・菅沼区議

との懇談(すすめる会立ち合い)

冒頭、池上氏から区議会請願を取り下げ、区長宛て陳情として提出する旨の表明。

【12月15日の区長からのコメント】

- ①ふじみ荘が、2021年3月31日で閉じてしまうことで、利用者の戸惑いと失望、不安が広がったこと、また、代替施設についても、明るい期待がもてないことなど、(区長として)心痛い思いをしている。社会的に弱い人にとって場所が無くなる、切り捨てられるのではないのかとの思いを抱かせ申し訳ないと思っている。一方で、議論をした挙句、廃止条例を通させて頂き、議決して頂いた。もちろん、すっきり、「いいね!の賛成」とはいかないものだったが。
- ②ふじみ荘は、老朽化と過重な運営コストなどが重なり、代替サービスとして千歳温水プールの改善の方向で検討を進めている。ふじみ荘のサービスで馴染んだものの代替であるから、(受け入れやお世話の)スタッフが必要だろう。ふじみ荘のスタッフはカラオケステージ、囲碁・将棋、鍼・灸・マッサージなど

スタッフ体制が手厚かった。千歳温水プールは、お風呂は(ふじみ荘に比べて)狭小ではあるが。

- ③これまで区は、子ども・若者には手厚かった。一方では、地域包括ケアはやったが、(ふじみ荘廃止によって)(高齢者は)切り捨てられたのではないのかという惜しむ気持ちを受け止めて(代替施策など)代案を示したい。高齢者向けの力の入れ方は弱かったのではないかと反省している。区として、(あらためて)「高齢者を大事にしますよ」というメッセージを示したい。
- ④同席したすすめる会からの(千歳温水プールなど緊急避難的代替施設整備とともに、ふじみ荘跡地の構想を含む将来構想が明確に示されていない)という指摘に対して⇒(区長の側から)高齢者の居場所、交流・つながりの場としての環境づくりの将来構想を示すことが大事と考える。(地区会館、区民集会所など)場所・スペースはたくさんある。自立と元気にしてくれるコーディネーターの配置が必要。
- ⑤(菅沼区議から)国家公務員宿舎跡地の「上用賀公園につくられるスポーツ施設の一角にふじみ荘のミニ版を組み込んでどうか」というアイデアについて⇒区内で銭湯がどんどん無くなっている。お風呂の効用はある。お風呂と健康という視点で、上用賀のスポーツ施設整備の際、スポーツ多目的、その一角にふじみ荘の組み込みというのは、いい案。区議会で足並みが揃えば区も提案しやすい。
- ⑥同席したすすめる会から(高齢者の地域参加促進施策づくりを通して「将来の希望につながる区としての明確なメッセージを示してほしい」と提起したことに対して)⇒関係者との意見交換を通して検討を進めていきたい。

7) この間の一連の意見交換・懇談の到達点と課題(2020年12月時点)

- ①ふじみ荘廃止の政策判断とその前提であるはずの9月1日区側提案(高齢者の地域参加促進施策)が、高齢福祉部が関与していなかったことに象徴されるように極めて不十分なものであり、区側が代替施策・施設として提示した千歳温水プール等の施設が、これまでふじみ荘が果たしてきた「高齢者の憩い、寛ぎ、交流の居場所」という機能と役割を「引き継いで担う」には、「ニーズに応じた環境整備」を整えることが必要との認識と身近な地域における高齢者の地域参加促進施策の具体的な検討に向けた「領域を超えた検討プロジェクト」の立ち上げなど必要な問題意識を区側と共有化することができた。
- ②代替施設として区側が提示した千歳温水プールの環境整備はあくまで緊急避難的な措置であって、ふじみ荘跡地の利活用を含む将来的な高齢者の地域参加促進施策と施設整備の構想を策定することが重要であるとの認識の共有化

が図られた。また、高齢者の地域参加促進施策の構想にあたっては、区の第8期高齢者保健福祉計画や認知症とともに生きる希望条例に基づく計画、さらには、区の地域包括ケアの全地区展開並びに地域行政制度再構築の検討との整合性も取りつつ、身近な地域における「憩い、寛ぎ、交流の居場所」を高齢者だけでなく、「8.28 つどいで」も提起された「多世代共生の居場所」という視点で策定することの方向性を共有化することができた。

- ③ふじみ荘利用者に対する施設見学会・懇談会が12月下旬から開催されたが、すすめる会として求めてきた「領域を超えた検討」にあたっての関係団体の参加と意見表明、意見反映の仕組みづくりの具体的なイメージや行程表は十分示されなかった。また、ふじみ荘が閉鎖となる2021年3月末日までに果たして、千歳温水プール等代替施設の「ニーズに応じた環境整備」が整うのか、また、具体的な検討・改善内容並びに作業日程等は明示されないままとなっていた。そこで、区側検討の進捗状況の検証と論点整理のため、2021年2月3日に生活文化政策部と高齢福祉部の両部の部長・課長、スポーツ推進部の課長等と懇談を行った。

8) 2月3日意見交換会における区側コメントのポイント。

- ①高齢者の地域参加促進施策策定にあたっては、活発・元気高齢者だけでなく、また、要介護高齢者だけでなく、「居場所づくり」にあたって、「楽しむ・寛げる場所」という点を新たに位置づけた。スポーツ的視点と福祉的視点を併せた「居場所」として足を運んで頂けるメニューを、イギリスの体験型施設をモデルに、各地域に一カ所ずつ展開していきたい(ひだまり友遊会館等)。
- ②拠点型から身近な場所に、地域包括ケアの全地区展開に対応する「居場所」を整備し地域の人々の協力で実施していきたい。その際、地域包括の三者連携で、「毎日、気軽に」を課題に、体制づくりや場の確保を併せて検討していく。
- ③大蔵第2運動公園を(ニーズに合わないとして)必ずしも切ったわけではない。マッサージは協議中。
- ④千歳温水プールのプログラム策定にあたっては、「運動と食」、「受け入れ」、トレーニングルームにおける「健康体操プログラム」の回数増(月1から月2へ等)などその場に居合わせた人に楽しんでもらうイベント等をスポーツ振興課の職れていた看護師や月2回やっていた健康相談についても、(千歳温水プールにおいても)健康相談コーナーを設けるとかその頻度であるとか体制づくりを検討したい。安全確認・確保のための施設内巡回やふじみ荘にあった座椅子を検討したい。お風呂については、施設営繕や理学療法士のアドバイスも受けて、底に沈める器材の活用等浴槽の深さや滑り止め、手すり等検討し

ている。浴槽利用人数は、現在、コロナ禍の中で定員 4 人が 2 人に制限されているが、いずれにしても、ニーズに応じたメニューの提示とヒアリングを再度提示したい。

- ⑤利用者からの声としては、温水プールの使い勝手に関する要望が多いと承知している。そのほか、コロナ禍で一日中の飲食ができないことや食事のメニューとその金額の高さ、4F の売店の品ぞろえについても声が寄せられている。また、用賀の周辺には公衆浴場がなくて困る、出かけることがないと健康上心配、体を動かす居場所を身近なところに、玉川地域は(千歳温水プールに)出かけるのに不便なので足の確保を等の声も寄せられている。
- ⑥高齢者の就労やボランティアの促進のため、AI システムやマッチングアプリの活用で仕事の切り出し、仕事の発掘など施策の深掘りをしたい。ボランティア協会の「おたがいさまバンク」もある。第 8 期の高齢者保健福祉計画の素案を区ホームページにアップしていく。

9) 2月3日懇談を踏まえて3月17日、

区側検討状況の検証ヒアリングを行った。

- ①2月3日の懇談において言及のあった「ニーズに応じたメニューの提示」という主として千歳温水プールに関わる「ニーズに応じた環境整備」のその後の具体的検討と整備の進捗状況に関して。
 - 湯張り高さを下げるのは湯の噴出口との関係で困難なので、介護用ベンチの使用を試行して関係者の意見を聴くなどして浴槽の深さを調整したい。
 - 2020 年度予算で手すりを設置したい。
 - 浴室の利用者定員を現行コロナ禍対応で2人としているがタイミングを見て4人に増やしたい。
 - 健康運動室の定員を、座席を増やして現行 20 人から 40 人まで増やす予定。
 - 利用者の体調確認や健康相談のための施設内巡回も含めたスタッフについて、現行月 2 回を見直して増やしたい(ふじみ荘は毎日 3 人のスタッフを配置)。
 - レストランについてはコロナ禍対応で現在飲食中止としているが、料金設定やメニューを合わせて改善を図る。
- ⇒「ふじみ荘利用者を受けとめる」という姿勢であれば、高齢者が安心して入浴できる浴槽とすることやメディカルスタッフの確保、食堂などふじみ荘の機能を維持するよう求める。
- ②9月24日、11月18日と二度にわたる区長要請の際に強く求めた地域包括ケアの全地区展開や地域行政再構築を視野に入れた「多世代共生の居場所づくり」の具体化について。
- 地域、地区の特性やニーズとそこの地域資源に即して構想するため、地区で

ヒアリングを進めて課題を整理している。まずは北沢地域から。各地域地区で1カ所ずつヒアリングを行い、地区の課題として地区の居場所づくりを進めていく。

○区全体として、高齢者の「身近な居場所づくり」をどのように整備するのか共通項を定めて社協のスタッフともイメージの共有化を図ろうとしている。地域包括ケアの三者連携で意見を聞きながら、そのうえで、令和3年度中にプランづくり、令和4年度に計画化していきたい。

③ふじみ荘が立地していた用賀・玉川地域は銭湯が少ないエリア。入浴施設を備えた公共施設の整備が強く期待されている。区がいったん提示した「(仮称)上用賀公園施設整備事業」に併せて、地域からは入浴施設プランの要望も出されている。この間、事務事業の緊急見直し等もあり、後景に退いたかにみえるが、身近な地域に「居場所・寛ぎ・交流の場」をどのように整備し、将来に希望の持てる高齢者の地域参加促進施策の実効性を担保していくのかを考える場合、とりわけ、地域行政の再構築の視点や高齢者を含む区内人口の分布状況に鑑みれば、地域・地区に計画的に整備することが求められる。区全体の公共施設等総合管理計画の進め方も含めて希望の持てる構想を示されるよう求めたい。

○ふじみ荘跡地に関して、建物等の解体設計費を予算上措置している。

○「(仮称)上用賀公園施設整備事業」に関して、基本構想はある。当初、基本計画を2021年度立てる予定だったが、コロナ禍対応で先送りとなっている。施設に関しては、体育館、トレーニングルーム、シャワー・サウナ等の入浴施設などの施設整備計画を基本計画として策定することになる。

○公共施設等総合管理計画はそもそも「複合化・多機能化」という発想。

⇒将来に希望の持てる高齢者の地域参加促進施策の実効性を担保されたい。

この間の一連の意見交換・懇談の到達点と課題

(2021年4月時点)

①ふじみ荘の存続は叶わなかったが、緊急避難的な代替施設としての「千歳温水プール」の「ニーズに応じた環境整備」や立地条件を考慮したバスの運行ルートの設定等利用者やすすめる会が求めた要望を一定反映する環境整備が進められてきた。

②ふじみ荘が立地していた用賀・玉川地域は銭湯が少ないエリア事情も踏まえた「入浴施設を備えた公共施設の整備の要望」に関して、区がいったん提示した「(仮称)上用賀公園施設整備事業」基本構想に関わって、現在、コロナ禍対応で先送りとなっている施設整備計画策定の方向性に言及されるなど地域の将来への希望をつなぐ道も示唆された。

- ③地域包括ケアの全地区展開や地域行政再構築の視点、高齢者を含む区内人口の分布状況に鑑みて、高齢者を含む「多世代共生の居場所」を地域・地区に計画的に整備することを区全体の公共施設等総合管理計画の進め方も含めて希望の持てる構想を模索する道筋をめぐる議論が始められることとなった。
- ④今後は、この間の区側とのやりとりで明らかとなった論点と課題を解決するために、引き続きその実効性ある具体化の道を探求し、区の政策と事業計画の形成に導いていくことが求められる。